

日本の遅れが目立つ：

## 多くの企業でDXはまだ初期段階に、Dellが全世界を調査

<http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1902/06/news043.html>

Dellが発表したデジタル変革の状況に関する調査結果によると、組織全体にデジタルトランスフォーメーション（DX）をより広げる必要があると考えているビジネスリーダーの割合は、全世界で78%、日本では66%だった。だが、多くの企業ではDXがまだ初期段階にあった。

2019年02月06日 11時00分 更新

[@IT]

Dellは2019年2月1日、Dell Technologiesが実施したデジタル変革の状況に関する調査「Digital Transformation Index」の結果を発表した。

は、2016年に実施した前回の調査と比べると、進歩の遅いことが浮き彫りになったとしている。同社はデジタルトランスフォーメーション（DX）をどの程度達成できているか、調査対象の企業を5段階に分けている。最上位がデジタルリーダー、次いでデジタル導入企業だ。

調査によれば、全世界ではデジタル導入企業の割合は増えたものの、デジタルリーダーの割合に変化は見られなかった。多くの企業では、DXがまだ初期段階にあった。この傾向は日本で強く見られた。

ベンチマーク グループ	内容	2018 年 グローバル (日本)	2016 年 グローバル (日本)
デジタル リーダー (Digital Leaders)	デジタル トランスフォーメーションが自社 DNA に組み込まれている企業	5% (2%)	5% (3%)
デジタル導入企業 (Digital Adopters)	成熟したデジタル プラン、投資、イノベーシ ョンを確立している企業	23% (8%)	14% (10%)
デジタル評価企業 (Digital Evaluators)	デジタル トランスフォーメーションを徐々に 採り入れ、将来に向けたプラン策定と投資を 行っている企業	33% (18%)	34% (15%)
デジタル フォロワー (Digital Followers)	デジタルへの投資はほとんど行っておらず、 とりあえず将来に向けたプラン策定に手を着 けはじめた企業	30% (33%)	33% (31%)
デジタル後進企業 (Digital Laggards)	デジタル プランがなく、イニシアチブや投資 も限定されている企業	9% (39%)	15% (42%)

企業におけるデジタル変革の5段階とそれぞれの比率 ( 出典:Dell)

### DX対応は新興市場で進む

今回の調査結果によると、組織全体にDXをより広げる必要があると考えているビジネスリーダーの割合は、全世界で78%、日本では66%だった。

変化する顧客ニーズへの対応で、5年以内に苦慮するようになると考えている割合は全世界で51%、日本では46%。自社が引き続き後れを取ると懸念している割合は全世界で30%、日本では50%だった。

「デジタルへの取り組みが進んでいる」との回答比率が高かったのは新興市場で、インド、ブラジル、タイ、メキシコ、コロンビアが順に世界のトップ5を占めた。

これに対して、「デジタルへの取り組みが進んでいない」との回答比率が高かったのは先進市場で、トップ5は順に日本、デンマーク、フランス、ベルギー、シンガポールだった。

### DXの阻害要因は予算やリソースの不足

今回の調査では、DX推進に関する課題をまだ解決していないと回答したビジネスリーダーが、全世界では91%、日本では88%あった。

DXの阻害要因として挙げた回答のトップは、世界では「データのプライバシーとサイバーセキュリティに関する不安」(34%)、日本では「予算およびリソース不足」(42%)だった。

	グローバル	日本
1	データのプライバシーとサイバーセキュリティに関する不安(34%) (2016年は5位)	予算およびリソース不足(42%)
2	予算およびリソース不足(33%)	組織内のスキルおよびノウハウの不足(31%)
3	組織内のスキルおよびノウハウの不足(27%)	一貫したデジタル戦略とビジョンの不足(24%)
4	規制および法律の変化(27%) (2016年は9位)	データのプライバシーとサイバーセキュリティに関する不安(23%)
5	デジタル カルチャーの成熟度の低さ(24%)	ビジネスのスピードに見合う適切なテクノロジーの不足(22%)

DXの阻害要因 ([出典:Dell](#))

一方、今後1～3年間に投資する技術分野として、トップに挙げたのは世界ではサイバーセキュリティ(58%)、日本ではAI(51%)だった。

	グローバル	日本
1	サイバーセキュリティ(58%)	AI(人工知能)(51%)
2	IoT テクノロジー (46%)	サイバーセキュリティ(49%)
3	マルチクラウド環境(44%)	マルチクラウド環境(29%)
4	AI(人工知能)(40%)	IoT テクノロジー (25%)
5	コンピュート中心のアプローチ(35%)	コンピュート中心のアプローチ(23%)

今後1～3年間に投資する技術分野 ([出典:Dell](#))

Dell Technologiesの会長兼CEOを務めるマイケル・デル氏は、「近い将来、全ての企業がデジタル企業になる必要があるだろう。だが今回の調査で、大多数の企業で取り組みが進んでいないことが明らかになった。DXがもたらす、かつてないチャンスをつかむためには、企業は技術をモダナイズ(最新鋭化)する必要がある」と述べている。

今回の調査は、Dell TechnologiesがIntelや調査会社であるVanson Bourneと共同で実施したもの。世界各国の大規模、中規模企業に対して、ディレクターから経営幹部など4600人のビジネスリーダーを対象に実施したもので、各社のデジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組みを評価した。

#### 関連記事



##### [日本企業特有の制約がある中で、いかにデジタルトランスフォーメーションに対応するか](#)

デジタルトランスフォーメーションのトレンドが進展し、ビジネスはソフトウェアの戦いに変容している。こうした経営環境に対応するために、最初からテクノロジーに立脚してきたWeb系や新興企業とは異なり、既存業務、既存資産を前提に変化に対応しなければならない従来型企業は、どのような変革のアプローチを採ればよいのだろうか。



##### [“デジタルトランスフォーメーションのいま”がざっくりと分かる記事7選](#)

いま、社会はITの力を使ってイノベーションを加速しようとする「デジタルトランスフォーメーション」の動きが活発化しています。では、実際にどのような動きがあるのか、これからどういう方向に進んでいくのか――。本稿では、@ITで掲載した記事の中から“ITのいま”がざっくりと分かる記事7本をご紹介します。



##### [デジタルトランスフォーメーションの出発点はどう設定するか](#)

多くの企業が、デジタルトランスフォーメーションにどこから手を付ければよいかで悩んでいる。デジタルビジネスへの変革を進めるに当たっては、まず出発点を設定すべきだ。出発点は4つに大別される。

#### 関連リンク

[プレスリリース](#)

Copyright © ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

